

基本的な考え方

第1期総合戦略による取組で得られた「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という悪循環の確実な弱まりを受け、この悪循環を反転させ、好循環に結び付けるための具体策に切れ目なく着手していくことが必要であることから、令和2年（2020年）3月に、「第2期佐久市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定（計画期間：令和2年度～令和6年度）

○ 「基本目標」、「基本的方針」の基本方針

- 第1期総合戦略で設定した4つの基本目標は維持
- 第1期のような網羅的なものではなく、中長期的なビジョンを持った上でこの時期何をすべきかを明確化し、特化・鋭角化
- 「しごと」を作り、「しごと」が「ひと」を呼び、「まち」が活性化する「しごと」起点という性質に加え、本市の特性を踏まえ、「まち」起点、「ひと」起点による複合的なサイクルといった多角的アプローチにより好循環を確立

○ 「具体的な施策」の基本方針

あらゆる施策において立脚すべき考え方と、時代の流れを踏まえて横断的に適用すべき手法を新たに設定

（立脚すべき考え方）

- 卓越性を磨き、生かす施策展開/地域ごとの特徴を磨き上げ、個性化する施策展開/市民が誇りを持てる施策展開/若い世代の人の流れを具体化する施策展開/長期ビジョンを明確化した施策展開/人口減少を意識した施策展開

（横断的に適用すべき手法）

- ターゲットの明確化とそこまで届く情報発信/未来技術の活用/国外の活力の活用/民間の発想・資金・人材・技術のフル活用



基本目標

| | | | |
|--|--|--|---|
| 基本目標1 選ばれる暮らしやすさを更に高める、佐久市における「まち」の創生 | 基本目標2 佐久市を知って、来て、住みたくなる、佐久市における「ひと」の創生 | 基本目標3 結婚・出産に先んじて子育てのトッランナーを目指す、佐久市における「しごと」の創生 | 基本目標4 多様な職場、多様な働き方から始める、佐久市における「しごと」の創生 |
| ○ 数値目標 「佐久市は住みやすい」と回答する人の割合 基準値：78.0%（R1（2019）） > 目標値：80.0%（R6（2024）） | ○ 数値目標 人口の社会動態の増加数（計画期間の累計） 目標値：1,500人（R6（2024）） | ○ 数値目標 合計特殊出生率 基準値：1.59（H30（2018）） > 目標値：1.77（R6（2024）） | ○ 数値目標 市内事業所の従業員数 基準値：40,237人（H28（2016）） > 目標値：41,800人（R6（2024）） |
| 「まち」・「ひと」・「しごと」の創生で目指すべき将来 | | | |
| ● 時代に適応した地域が作られ、ネットワークで結ばれ、住民が生きがい豊かに安心して暮らし続けている。 | ● 本市の卓越した魅力が生まれ、その魅力に惹かれて、若い人を中心に地域内外の多くの人が集っている。 | ● 若い世代の結婚、出産、子育ての希望がかない、安心して子どもを産み、育てている。 | ● 魅力的で多様性のある仕事生まれ育ち、住民が安心して働き、経済的な安定を得ている。 |

【目指すべき将来】

「若い世代の希望をかなえ、選ばれるまち」を実現し、将来に渡って活力ある地域であり続ける。

【目指す人口】

「佐久市人口ビジョン（令和元年度改訂版）」に掲げる人口の将来展望の実現
 令和42年の目標人口＝約86,000人

